

<支援プログラム>

作成日 R7年3月17日

児童発達支援センター：永山こども発達支援センター ぼの

法人理念：～希望ある未来へ～
地域の中での発達支援の中核的役割を担い、
子どもの育ちのために全方位からのサポートを追求します。

支援方針：～心に寄り添うきめ細やかな支援～
お子様やご家族の想いに寄り添い、成長に必要な支援の方向性を明確にし、
お子様の可能性を広げる支援を丁寧に行います。

サービス提供時間：9:00～13:00（小集団）、14:00～14:45（親子通所）、15:30～16:15（親子通所）

開所時間：9:00～17:00

送迎実施：あり（小集団支援）/なし（親子通園）

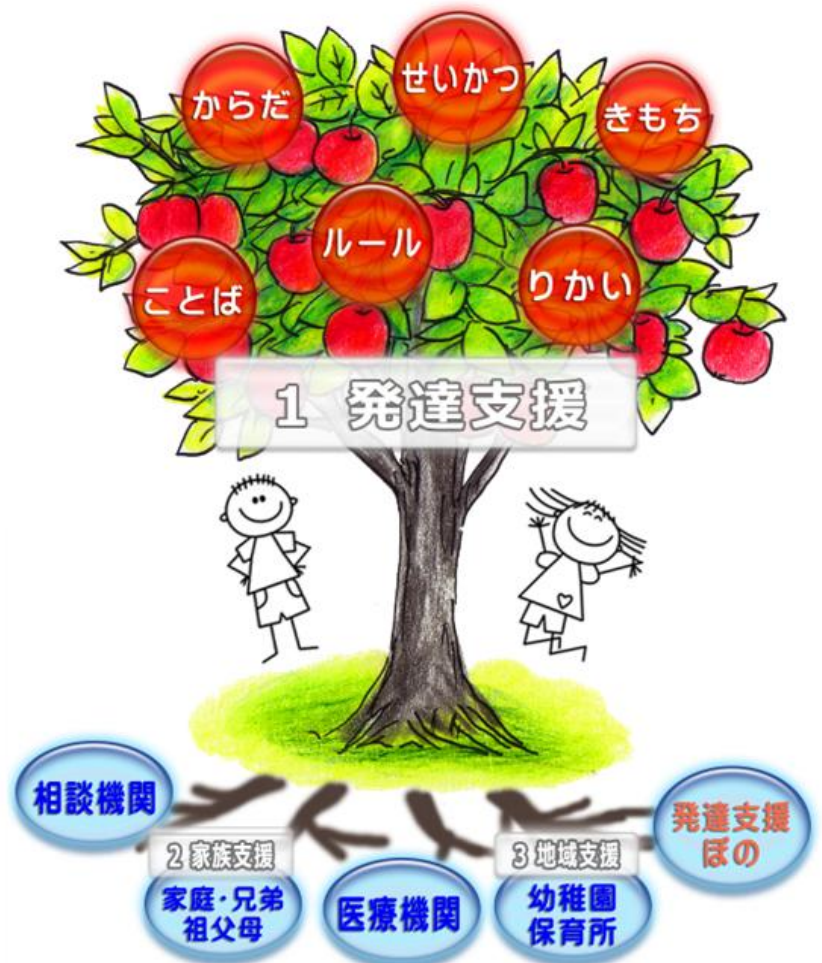
支援内容

＝発達支援センター「3つの役割」



<目指す発達支援>

- ✓ 日常生活に必要な力
⇒排泄や身支度、基礎的な運動能力、理解する力などの日常生活に必要な力を身につける。
- ✓ 社会性やコミュニケーション能力
⇒「待つ」「話を聞く」「相手に思いを伝える」などの社会性やコミュニケーション能力を身につける。
- ✓ 自己肯定感
⇒より良い経験を重ねることにより「できる！」ことが増え、自信へと繋がることで自らの在り方を積極的に評価できる感情を高める。



本人支援

【健康・生活】

健康状態の維持・改善

生活リズムや生活習慣の形成

基本的な生活スキルの獲得（食事、排泄、衣類の着脱など）

【運動・感覚】

粗大運動（体づくり、ジャンプ、ボール遊び等）や微細運動（つかむ、ひっぱる等）を通じて基本的な動作の向上を目指す

感覚過敏な子どもたちへの配慮や、感覚の特性に合わせた支援

五感を刺激する活動の提供

【認知・行動】

色や数字など、さまざまな興味関心の幅を広げる活動の提供

子どもたちが認知しやすい環境の整備

絵カードや実物での視覚的な支援（スケジュール掲示）や50音表、時計やタイマーを使用した支援

【言語・コミュニケーション】

絵カードやホワイトボード、ジェスチャーなどのサインを用いて、言葉以外でのコミュニケーション手段の獲得を支援

【人間関係・社会性】

他者との関わり方や社会的ルールの理解を促す支援

集団生活における適応力の向上

【PT,OT,STによる専門的支援を含む、
子ども一人ひとりの特性やニーズに合わせて、総合的な支援】

地域支援

地域全体で発達に課題のある子どもを支えるための取り組みです。

【具体的な内容】※保育所等訪問支援の実施

地域の保育園・幼稚園・学校との連携:先生向けの発達支援研修や情報共有

障がい理解の啓発活動:講演会やイベントを開催し、地域の理解を深める

相談窓口の設置:保護者や関係機関からの相談対応

家族支援

発達障がいのある子どもを育てる家族へのサポートです。

【具体的な内容】※保護者様向け研修会の実施

ペアレントトレーニング:子どもへの接し方や行動管理の方法を学ぶ

家族交流会:同じ立場の保護者同士の情報交換・悩み相談の場を提供

家族カウンセリング:ご相談内容に合わせた心理的サポート

兄弟支援:発達障がいのある子どもの兄弟姉妹へのケア

移行支援

幼児期から学童期、学童期から成人期へのスムーズな移行をサポートする支援です。

【具体的な内容】※就学相談の窓口としての役割

支援の卒業:発達支援により自力やヘルプ法を身に着け、一般社会施策への適応ができる力を育てる

就学前支援:小学校入学に向けた適応トレーニング(集団生活・学習習慣の準備)

放課後等デイサービス:学校終了後や休日に利用できる支援場所の提案

主な行事

- ・避難訓練(年2回の消防車を呼んで、総合避難訓練)
- ・わくわくタイム(スタッフによる月1回の季節の催し)
- ・内科健診(嘱託医による内科健診)